

Y's Men's World



巻頭言

今夏の国際議会で、国際事務局をスイスのジュネーブからチェコのプラハに移転することが決議されました。これには国際憲法の改正が必要で、世界全クラブの3分の2が郵便投票で賛成せねばなりません。移転に必要な詳細を調査する実働委員会がプラハに赴いて現地調査を行っています。その結果は2006年1月の年央会議に報告され、2月には上記投票が実施されることとなります。皆様の区事務所から必要な情報を受け取り、クラブとしてこの憲法改正（国際事務局の移転）への賛否の投票を行ってください。



皆様の、インド洋大津波への救援活動の記事と写真を特集すべく努力しましたが、本誌では余り多くの投稿を頂けませんでした。どうぞ次号に（津波対応に限らず）よい報告を写真つきでお寄せください。

ワイズメンズワールド編集長アラン・ウォリントン

*Yours in Y'sdom
Wally*

* 次号原稿締め切りは2006年1月31日です。（日本の方は1月20日までに青木副編集長へ。272-0033 市川市市川南3-12-C-1508、kkaoki@myad.jp）

津波へのワイズメンの目覚しい対応

今日までの津波救援の動きをお伝えします。

昨年12月26日にインド洋大津波が起きた直後から、私の呼びかけに応じて世界各地のクラブから救援金が送られ、その総計は43万2千ドルに達しました。うち一部は国際事務局を通じ、またそれ以外は直接被災地に届けられました。韓凶のワイズ・YMCAは皆様もご存知の「グリーンドクターズ」（今回は医師・救命士9名と看護師6名のチーム）をスリランカに急派し、2週間の医療援助を行いました。

このほかにも報じられていない貢献があるはずで、私の推測では、津波救援・復興支援の拠金額は60万ドルを超えていると思います。短期間の拠金としては史上最大級のものだったわけで、ワイズメンとして誇るに足る成果でした。「光を輝かせ」てくださった皆様に心からの感謝を申し上げます。

直前国際会長 ジョン・L・チョア

ワイズマン個人に焦点を

本年7月に家内のマリーとともに素晴らしい旅行をしました。カナダのプリンスエドワード島での素晴らしく組織されたアメリカエアと合同エア大会の訪問とスエーデンのヴステロスで開催された国際議会の後に開催されたヨーロッパエア大会への訪問です。後者の大会で私は80代国際会長として又アフリカ大陸で初めての国際会長の就任式を持ちました。



旅行を通じ、私が出会った全てのワイズメンが私に分かちあってくれた愛に圧倒され、世界の違う地から来て、違う人種、信仰、信条、文化の違いを超えてワイズを一つにしている心からの友情、団結と交流を経験することができました。これらの事は他の組織とワイズが異なる部分で、まったく初めての人にもあつという間に友に変えてしまうようなマジックをもつ大変ユニークな運動だと思います。ワイズメン国際協会は説明できない性格をもつ世界家族です。でなければ皆さんはどのようにこれらの強い愛と絆が説明できるでしょうか。我々の運動はひとつの磁石であり、このようなまじないや反応が皆さんの心と体を世界家族の真のワイズに変えてしまうのです。

我々はこのユニークな運動に属しすばらしい交わりを経験する機会を与えられ又YMCAやコミュニティーに奉仕できることに感謝します。宗教、市民、経済、社会そして国際問題に関わる活動する国内外の他の団体も支援しているのです。

私の今期の主題は「求めるワイズから行動するワイズへ」です。コミュニティーの前線において奉仕するワイズマン個人と彼または彼女のクラブレベルでの行動に焦点を当てることです。彼らは責任をもち、クラブ活動に参加し、会費もはらいながら率先して事業を推進して行く人たちです。またそれはコースの大切さを理解しワイズメネットとYMCAとのパートナーシップの価値を認めるワイズマンです。ワイズには失業はありません。失業とは自分の労働を他に売る人で賃金を求める人です。我々の奉仕は無料で自主的なものです。我々の得る賃金は事業を達成したときの満足感です。コミュニティーには沢山の仕事があります。世界の8つのエリアのワイズの皆さんに呼びかけます。

“ 求めるワイズから

行動するワイズへ ”

国際会長 ベンソン・ワブレ

求めるワイズから行動するワイズ

アジア地域の活動

東山荘で行われたアジア地域の年央会議で、津波に対する3年計画復興プログラムを打ち立てました。このために委員会が立ち上がり、アジアサービス主任のキャリア・フアング（YMCA 連携主任）が委員長に指名されたとともに、この復興プログラムは YMCA アジア太平洋同盟と協働して行うことも確認されました。

アジア地域に300万円ほどの基金が寄せられたのを元に（東日本区約100万円、台湾区200万円など）第二期リハビリテーションプログラムに支援することになりました。そのうちの一部は YMCA アジア太平洋同盟のイップ・コック・チュン総主事の要請で、同時通訳機を購入してリハビリテーションプログラムに提供することに決めました。YMCA アジア太平洋同盟は今後、スリランカ、インド、インドネシアにおいて PTSD に悩む子供たちのカウンセリングを展開するために、現地の人をカウンセラーとして育成するためにイスラエル YMCA とイギリスの YMCA（Y ケア）から専門家がやってきます。しかし、その研修には言葉のバリアがあり、通訳機があれば英語を話せない現地の人に訓練をたやすく施すことが可能になるということです。

直接、アジア地域に送られた支援金以外にも、今回の津波に関してはそれぞれのクラブ、区単位で直接、間接的な支援がなされました。それぞれの国の YMCA と協働したワイズメンも多かったのです。また赤十字と合同し早く動いたワイズメンもありました。韓国のコリア東区はプサン YMCA と協働で Green Medical Doctors という医療団を組織しており、津波が起こった数日後にスリランカでの医療活動を始めました。これには元国際会長のキム・ボン・ヒーや次期国際会長のチョイ・ハン・キも医師として支援しています。

直前アジア会長 長尾ひろみ

デンマーク区の対応

テレビで放映された津波の悲惨な光景を見てデンマークのワイズメンは動かずにはいられませんでした。デンマーク区の津波救済プロジェクトには70以上のクラブがファンドを集め120,000米ドル（約1500万円）が集まり、そのほとんどはジュネーブの国際本部に送られました。国際本部は責任をもってインドとスリランカに均等に分配することになっています。

デンマークのクラブでスリランカやインドのクラブとIBCを組んでいるところは、直接そのクラブに手を差し伸べ、最も必要なことに使ってもらうように現地のクラブにお願いしました。多くのクラブは資金集めに奔走し、蚤の市を開いたり、また古着屋を開きました。買っ
求めるワイズから行動するワイズへ

てくださったお客様には、この売り上げで間接的に津波の被害者を助けることになるかと訴えました。お客が値段を尋ねたときには、値札に書いてある金額より少しカンパしてくださいと頼むと、ほとんどの人が定額の倍額を提供してくれました。

デンマーク区の津波救済プロジェクトはテレビやホームページなどのマスメディアで報道され、これはダブルの効果を発揮しました。まずワイズでない人たちの関心を引き、これによってワイズメン国際組織が世界中で困っている人に直ちに支援する運動であるというイメージを植えつけたことです。

欧州エリア報編集長 ポールエリック・ディドリクセン

鹿児島クラブからの思いやり

鹿児島クラブは2004年2月にスリランカのコツテクラブとIBCを締結していたので同年12月26日に津波がスリランカを襲ったというニュースは鹿児島クラブに大きな衝撃を与えた。Eメールで連絡を取ったところ幸にもコツテクラブの関係者の中に犠牲者はいなかったが、特にスリランカの東部で大勢の犠牲者と何万人もの人々を巻き込んだ惨事が起ったことが判明した。最も必要とされていたのは津波で親や家族を亡くした子供たちのカウンセリングと飲料水、消毒剤、ビニールシートなどだった。地理的に離れていることもあり鹿児島クラブは何をすべきか頭を悩ませたが、被災者に少しでも助けになればと考えて慰めと励ましのメッセージを添えてお見舞金1000米ドルをコツテクラブに送ることを決定した。お見舞い金とメッセージを無事に受け取り心から感謝しているというコツテクラブからの返事を受け取って鹿児島クラブのメンバーは胸をなで下ろした。その後もメンバー全員がスリランカの人々が心身共に出来る限り早く回復されることを祈り続けている。

西日本区、鹿児島クラブ 吉松勝郎

短期青年交換（STEP）の新展開

インドエリアからのSTEPへの応募は稀です。高校から大学への進学競争が激しく、何週間も海外旅行することは困難なのです。

そこで南西インド区部では「区同士のミニSTEP」を新設し、部内のTクラブのワイズリング・ストーン君を中西インド区のKクラブの会長宅へ今春12日間派遣しました。彼は派遣先で、青年やシニアのワイズメンと交流し、よい先例を作りました。

南西インド区部 E・ジャスタス

インド中西区の津波被害への対応

インドエリアのワイズメンは2004年12月26日の夜、未曾有の大災害を経験した。荒れ狂う津波は南インド東岸と西岸の沿岸地帯の何千人もの住民の家と家財道具を一掃したが、この大災害はインドの全ての奉仕団体にとって大きなチャレンジとなった。インド中西区に属するワイズメンズクラブの多くは沿岸地帯に位置しているので軽い屋根と脆弱な構造の住宅に暮す近隣の人たちと共に津波被害をまともに被る結果となった。

大規模な救援活動が開始される前に中西区第1部と第2部の多くのワイズメンは臨機の処置を取り、大きな被害を受けた被災者を自宅や仮の救済キャンプが設けられた近隣の学校に搬送した。被災地から遠く離れたその他の部のワイズメンも駆けつけて被災者に食料や衣類を配布する奉仕活動に加わった。地震発生日の夜とその彼の何日にもわたる多くのワイズメンとその家族の無私な奉仕は将来にわたって被災者に感謝されることになるだろう。津波被害の深刻さについて中西区理事より報告を受けたジョン・L・チョア国際会長は直ちに彼の緊急基金から500米ドルを拠出し、この資金は難民キャンプの被災者の食糧と衣料品を購入するために使用された。

臨時区評議会が招集され、インド中西区に属するクラブからの義援金で区津波救済基金を集めることが満場一致で決定された。又、住宅の再建や食料配給は政府関連機関がすでに援助を行なっているため、この基金は被災者が再建・修復された住宅に入居する際の日常必需品の購入資金として利用できることが決定された。

さまざまなクラブ、善意の人々から寄せられた義援金とアジアエリア会長のエリア基金からの2回の拠出金を合わせて13,600米ドルが集められた。我々の援助を最も必要としている被災者を特定するために中西区第1部と第2部の役員によって150家族の被災者リストが作成された。政府援助の内容を念頭に置いて最終的に出来る限り多くの被災者家庭に家具一式、木製ベット、テーブル、長イスを提供することが決定された。家具は一式100米ドルで購入された。125セットの家具が被災者リストにある125家族に提供された。五月にはインド中西区理事P.J.アブラハム主宰の公的式典で水産大臣による家具配給開始式が執り行われ、イベ・ジュイコブ・インドエリア会長が主賓として出席した。この式典は津波の被災者にとって真に救済の日となった。我々は家具の提供を受ける被災者の自宅までの運送費も負担した。区レベルでのこのような大規模な奉仕事業を実施したのはインド中西区においては初めてのことであり、この経験は今後、困っている人々にワイズメンの奉仕活動を提供する上で大いに役立つことになるだろう。

ル、長イスを提供することが決定された。家具は一式100米ドルで購入された。125セットの家具が被災者リストにある125家族に提供された。五月にはインド中西区理事P.J.アブラハム主宰の公的式典で水産大臣による家具配給開始式が執り行われ、イベ・ジュイコブ・インドエリア会長が主賓として出席した。この式典は津波の被災者にとって真に救済の日となった。我々は家具の提供を受ける被災者の自宅までの運送費も負担した。区レベルでのこのような大規模な奉仕事業を実施したのはインド中西区においては初めてのことであり、この経験は今後、困っている人々にワイズメンの奉仕活動を提供する上で大いに役立つことになるだろう。

ウエスタン一色のハワイ区大会

第69回ハワイ区大会はカウアイ島（別名庭園島）で過日、盛大に開催されました。この大会には東、西日本区から、IBCを組んでいる熱海グローリークラブと和歌山紀の川クラブの代表が参加して下さいました。大会は「目標の下に団結し、戦略を持って行動を」を主題に掲げてウエスタンスタイルで運営されました。

木曜日の前夜祭に次いで開かれまして大会式典では、実行委員長のFrank Olsenからハワイアンカウボーイの歴史について簡単な紹介がなされ、Ted Shanksがカウボーイの詩をいくつか朗読いたしました。会場内には実物大のローリングホースも置かれ、カウボーイ姿の代表たちが、それにまたがって、ロープ投げに興じる姿もありました。また、夕食後には会場に軽快なカントリーミュージックが流れ、フロアは往時の衣装に身を固めた代表たちによって、たちまちのうちに埋め尽くされました。ウエスタン一色に彩られた楽しい大会でした。

ベヴ・オルセン、東カウアイクラブ（ハワイ）



求めるワイズから行動するワイズへ

命の水

アフリカではきれいな飲み水を確保することが、今でも多くの地域で大変難しいことなのです。Lagos 州の Ikeja ワイズメンズクラブは長年にわたって人道支援を行っていますが、過日、日量 2,500 リットルのきれいな水を供給できる 2 つの井戸を寄贈することが出来ました。その一つは Lagos 州の Onike Yaba にある老人ホームに寄贈しました。ここの入所者達にとって、きれいな飲み水を得ることは長年の夢だったのです。もう一つの井戸は Aba Johnson/Badagry Street のコミュニティーに贈りました。当日は Lagos 州の Yaba と Ikeja で、州の役人やゲストならびに住民など合わせて 100 人以上の人々が参加して寄贈式が行われました。式の様子は知事公室の報道陣や Lagos 州テレビのスタッフによって大々的に報道されました。お陰で Ikeja クラブは一躍有名になりましたが、これによって、長年人道支援を行ってきた我々のクラブの活動が地域の人々に理解され、今後の会員獲得にいい影響がでてくれることを期待しています。

ナイジェリア・イケジャクラブ会長 A・アジヨマレ

ハンガリーのクラブ活動現況

ハンガリーの Szombathely クラブはデンマークの支援を得て 1997 年春にチャーターされました。現在、クラブは Danube 区に所属し、会員数は 23 名です。私たちは困っている人々を手助けし、同時に外国のクラブとより良い国際関係を樹立することを目標に掲げて活動しています。特に、若者たちを私どもの活動に誘い入れ、種々の活動に積極的に参加してもらえよう種々工夫をこらしています。クラブの年度計画は全員の意見を取り入れて作成し、さらに、クラブ活動を活性化させるために月当番制度を取り入れたりしています。これは月々の活動をその月の当番が責任を持って遂行してゆく制度で、かなりの成果を収めています。しかし、わたしたちのクラブはまだまだ経験不足ですので、毎年 2 回の割合でデンマークのリーダーの人たちがクラブを訪問し、激励や指導をして下さっています。2002/2003 年度の国際会長であった BillWard さんもメネット共々、私たちのクラブを訪ねて下さいました。私たちも Slovakia の各クラブの活動を支援したり、外国におけるクラブのチャーター式典にはしばしば出かけています。

Mt.Martin の祝日には毎年、会員及びコメントたちが用意したクリスマスプレゼントのチャリティー販売を行います。収益でおもちゃを買い入れ、それらを Transylva にある孤児院や早期開発センターならびに「熊のプーさん保育園」に寄贈しています。また、身体不自由な青年

求めるワイズから行動するワイズへ

たちの学用品購入用にも寄贈しています。今年の収益は悪性腫瘍にかかって苦しんでいる人々を肉体的にも精神的にも世話している Hospice 財団に寄付いたしました。

ハンガリー・ゾンパテリークラブ M・ラザリー

マルタにおけるホームレス救済



地中海の島国マルタ共和国の首都のパレッタ YMCA は、多年にわたりホームレスの人々にアパートの部屋を仮住まい場所として提供してきました。2001 年

突然のことに、ある篤志家が一軒の建物を 10 年間無償で YMCA に提供してくれました。その建物は保存状態が悪く、改修が必要でした。誰が直すか、運営はどうするか、問題山積でしたが、「求めよさらば与えられん」です。陳情の結果、社会政策相がこの建物を 22 ベッドの仮設住宅に建て替える予算をつけてくれました。ライオンズクラブが全ベッドを、他の提供者がキッチン一式を、という具合に、2 年かけて設備を整えました。国際ワイズの TOF 援助ほかの寄付により YMCA は有資格のワーカーを雇い、昼夜無給の救護活動を開始しました。

この TOF 援助が機縁で、2004 年 3 月、パレッタ YMCA にワイズメンズクラブが誕生しました。上記ホーム「グルニキカッサル」正式開所は同年 7 月でした。以来この施設で百名以上の人々に住まいを提供し、自尊心を養い、社会復帰をお手伝いしています。

パレッタクラブ会長 トム・キューセンス

無料の医療援助

インドは貧しい国で、人口の 20% 以上は最低水準以下の生活をしています。彼らには健康診断の機会がなく、病気の治療を受けることができません。中央インド区のランチワイズメンズクラブは無料医療検診キャンプを実施しています。2 ないし 4 人の熟練医師を確保しています。建物がな

いので、道端にテントを張り、事前

新聞等で日時・場所を広報し、当日は拡声器で町



カナダ発特報

中に宣伝します。製薬会社から試供品を提供してもらいます。



ランチクラブ サンジャイ・クマール・チャバリア

キャンプには毎回10から15人のワイズメンが参加し立ち働きます。昨年度は4回キャンプを行い、430人の患者にサービスを提供しました。

サッカーが幸福を運ぶ

以前、ワイズメンズワールドの表紙に、二人のカナダ人の子供達が載ったことがあります。これはオタワ・ワイサービスクラブが、サッカーボールのリサイクル運動として「フェア・トレード・サッカーボール」を作り広めているからです。クリス・セリグ氏がネパールを訪れて以下を報告してくれました。



クリス・セリグ氏の報告

私が滞在していた孤児院はカトマンズから少し離れたアルバリという小さな村で、世界中から集まったボランティア達で運営されています。詳しくはこちらのサイトをご覧ください <http://www.childhaven.ca> その施設では平均年齢が8歳位で、1歳から18歳までの子供達、男女併せて100人以上が暮らしていて、食事にはお米、カレーポテト、野菜などを食べ、自家製の豆乳を飲んで生活しています。

子供達は、そのような境遇にもかかわらず、幸せに楽しく遊んで暮らしています。村の近くにある学校で英語



を習っているのです。訪れるボランティアとは意志疎通がよくできています。それに家事があまり無いので、近くでゲーム等をしたりして過ごしています。

こちらから、サッカーボールを持って行ったのを知って、すぐに私はボールを持ち去られました。遊び場はサッカーには適した平坦な土地ではないですが、男女入り交じって楽しんでいます。サッカーボールが無い時には、バスケットボールやバレーボールを代用しています。ここで一番心に残った事は、私がボールを6個持って行ったにもかかわらず、1個だけ与えてくれと子供達が言ったことです。それを使い古して使えなくなった時に初めて、次の新しいボールが欲しいということでした。

ここで、私はすべてが満たされた忘れられない経験をしました。みなさんの献金が子供達の役に立ち、1個のサッカーボールが、子供達に与える影響は代え難いものだと感じました。

.....



「フェア・トレード・サッカーボール」という事業が、YMCA、教会、地域社会と連携して平和を築き、暴力反対を唱え、子供達の労働と戦っています。サッカーだけにとどまらず、他のスポーツにも影響を与え、バレーボールやビーチバレーの分野にもNGOとして活動しています。そしてスポーツ対戦などのイベントも企画して将来の展開に期待が寄せられています。

カナダ、オタワ・ワイサービスクラブ デビッド・ホール

ワイズ・YMCAで結ばれた同志愛

私は先般、娘を大学進学のためボストンに連れて行きました。住居探しで困っていたとき、40年近く前にバンコクYで奉仕活動していたスモーガン夫妻が、ワイズの誼で万事を助けてくれました。Y-ワイズの絆を痛感し、神に感謝した次第です。

バンコククラブ ウィチャン・ブーンマバジョン

たった 55,000 ドルで

こんな大きな変化が！！

ブラジル・サンパウロ YMCA 訪問記

TOF は 1991 年から 1999 年の 8 年にわたってブラジルに総計 55,000 米ドル(約 640 万円)を援助しました。そのお金はミシン、タイプライター、大工道具、刺繍用具、教育機材などの購入に使われました。最初に購入したものはもう 14 年も経っていますが、よく手入れされて今でも毎日使用されています。私は 2005 年の年央会議の間それが使われている YMCA を訪問する機会を得ました。



センターの製作品を感心して眺めるベンソン・ワブレ国際会長(左端)と国際議員たち

サンパウロのスラム街

YMCA センターはサンパウロの最貴地区におかれ、ここでこの地区の青少年を教育しています。ここで彼らを風呂に入れ、1~2 食の食事を与えるのです。この地区の平均月収は 170 米ドル(約 19,000 円)あるいはそれ以下です。サンパウロ・ワイズメンはこのセンターを支援し、2003 年には 101,697 人がここを訪れ、5,647 人に 119,276 食を提供しました。

技能訓練と終了証書

センターでは衣服、家具、T シャツのプリント等の技術を教えています。若者達には訓練が終わると修了証書を与えます。センターは地元企業とよい関係にあるので職を身につけた若者達の多くは就職することができます。



求めるワイズから行動するワイズへ

利益で運営費を！

センターで作ったものは地域に販売し、その利益はセンターの運営に使われています。サンパウロ・ワイズメンも援助しています。子供たちの親たちとも緊密な連絡を保ち、親達は YMCA の熱心な支持者になっています。センターには薬局もあり、看護婦さんもいてそれも大いに役立っています。

レジャーセンターで資金作りを！

サンパウロの人口は 2,000 万で、その大多数は極貧のうちに暮らしており、本当に援助を必要としています。YMCA は少数の恵まれた人々のためにフィットネス、水泳、その他のスポーツセンターを設けてその大事業の資金を生み出そうとしています。現在、サンパウロ YMCA は 16 のレジャーセンターを持ち、2,600 人のボランティアが奉仕しています。YMCA の全収入の約 25% は慈善事業に使われています。残念ながら膨大な需要には到底充分とは言えません。



私はサンパウロ YMCA とワイズメンの素晴らしい働きを見て感動しました。そして私達の TOF のわずか 55,000 ドルでこんな大きな変化をもたらすことが出来ることにも感動しました。

ヨーロッパ地域会長

ボウル・ヘンリック・ホーベ・ヤコブセン

2006 年版 TOF カレンダー

ウェブサイト www.ysmen.org からダウンロードできます。12 ヶ国語でご利用いただけます。

水上センター支援の長期 CS 活動

カナダ・シャーロットタウンクラブは地元プリンスエドワード島大学に設置された水上センターを支援して、ファンド作りを続けています。

D・イング

島国モーリシャスにワイズメネット会誕生

当地の Y の活動は景観に劣らず素晴らしいです。

(訪問の感想) 前国際メネット主任 J・キャメロン

ワイズメネット

ワイズメネットニュース



「過去に敬意を、未来に汗を」と Benson Wabule 国際会長は今年度力強い主題を掲げています。汗して共に働こうというものです。

前国際ワイズメネット主任の Jennifer Cameron と彼女の仲間たちの献身的な働きを世界中のワイズメネットが記憶にとどめ感謝しています。

記録によると、現在ワイズメネットクラブは 542、メンバーは 8,202 人です。04/05 年には 135 クラブ、1,343 人のワイズメネットの増加をみました。過去 93 クラブの認証が記録されています。インド地域で 84 クラブ、韓国で 8 クラブが認証されました。

昨年のワイズメネット国際プロジェクトは、インドのクタネラに於いて 20 家族(主として女性)に職業の機会を提供しました。間接的に 100 人の人々を支援しました。裁断、縫製、刺繍の技術者や助手が訓練を受け、4,000 米ドルが材料の購入にあてられます。

行動計画案

継続中の活動を引き続きすすめます。

国際へのワイズメネット 1 人 1 米ドル献金と国際プロジェクトへの自発的な献金を奨励し正確な運営を行います。

ワイズメネットがワイズメン、YMCA、地域に対して財政の面で支援を続けること又その存在を明確にすべく独自の活動をすすめることも大事です。その中から指導者が育ち組織に力を与えます。

知識は力です。組織を学ぶ機会をつくること即ちクラブレベルで訓練と教育が行われることです。指導者達はプログラム内容を工夫すべきです。

ワイズダムを知ることは基本です。

“家族ぐるみ”は組織の特長です。共に精神、知性、身体(標章の赤い三角)を育てる機会に恵まれています。新しい会員に家族ぐるみをすすめてみましょう。

地域で共に高齢者をたすけ、若者を応援し、特に教育に関するプログラムを考え、シスタークラブを通して交流しなければなりません。

大事なことは 8 地域すべてのワイズメネットクラブが認証をうけるように進めることです。

HIV/AIDS の防止は国際協会の世界統一プロジェクトです。私達も教育を通して取り組みます。

ウガンダ、ロシア、コスタリカでの新しい国際プロジェクトが 2005 年の国際議会で承認されました。総額 3,480 米ドルの寄付が決っています。

求めるワイズから行動するワイズへ

「求めるワイズメンから行動するワイズメン」の主題を思い出し、行動するワイズメネットになりましょう。

“わたしは眠り、人生は美しいという夢をみました。そして日がさめ人生にばをすべきつとめがあるということに克てぶきました”

国際ワイズメネット主任 シャンテイ・パニグラヒ

分かれ道に立つ若者に進路を!

一人の若者が「日向村」へ行こうとして、分かれ道にさしかかりました。そこには、領主町方面と善かれた矢印の標識があり、広い、平坦な舗装された道の方を示していました。もう一つの矢印にはお日様村方面と書いてありましたが、その指す道は狭く、岩ででこぼこのけもの道のような感じでした。若者は迷ってしまいました。

しかし、とっさにひらめいて、標識のポールを登り、標識の向きを取り替えました。そして、うきうきとして、平坦な道を歩いていきました。が、日向村へ行き着くことが出来なかったのは当然でした。

若者が直面している問題は日に日に広範囲にわたり、激しさを増しています。同時に、信仰と生活は切り離され、無関心、不平等、プライド、自己満足、愛の欠如、社会の分裂、使命を迫る熱意の低下等が若者を神様に導けない理由になっています。若者達の情緒的、精神的、霊的、身体的な不均衡がたくさん理由で起こりました。若者の明日は良きものではなく、不安で満たされています。ワイズメンは、若者が目的を達成し、その最終地点に安全に到達出来るよう助けるという重要な役割を担っています。

出発点と到達点の間で、若者がどのような道筋を取るべきか、私達には明確になっていなければなりません。若者のほとんどは、その道程の分かれ道で、迷い、そして安易な行動をしがちです。今日の生活様式や状況の中で、或いは宗教的な場所においても、たくさんの若者が選ぶ信仰の道は、軽やかで、快適で、若さに富んだものです。

こういった若者達は、そのように選んだ道が彼らをどこへも導かず、或いは導くとしても、後に後悔しかないような道だということに気がついていません。この分かれ道で、どれ位の若者が真に挑戦に催する道を選ぶのか疑問です。このような状況は「結局止むを得ないものだ」と言うしかありません。指導者が若者たちを安全に導くとしても、どういふわけか道はずすことは避けられないのです。

社会経済的文化、政治学、工学そして哲学は若者を間違った方向へ導いています。その華麗さ、幻想、魅力的な訴えは若者の目をくらまし、本来の使命への意欲を鈍らせ、神様が連れて行こうとされたところへは絶対に行き着けないようにしてしまっています。色々な障害や誘惑の中

においても、神様は若者達が信仰への旅路において、立ち止まり、慎重に進むことを期待しておられます。

それゆえに、ワイズメンとして、私達の責任をもう一度見直してみる必要があります。素晴らしい到達点に至る信仰への、神に備えられた一步一步は感謝と讚美に満ちた、真の意味で楽しいものです。もし我々が方向を誤れば、神様はユーターンさせていただきます。

ゴールデン オポチュニティー

- 黄金の機会 -

個々のクラブは、最も基礎的な根っことして、世界に広がるワイズ運動のバックボーンです。国際のレベルで方針や方策を提供しても、活発なクラブ・メンバーのサポートなしには、これらの計画に実りはなく、ゴールは達成されません。

個々のクラブは毎年に予算を立てますが、そこにはエンダウメント・ファンド(EF)への献金が組み込まれていなければなりません。

区理事は、個々のクラブのゴールを基に、区役員会或いは区大会において、区としてのEFのゴールを設定します。地域会長は、地域議会において、区理事が報告する各区のゴールを基に、地域としてのEFの予算を立てます。地域会長は、それぞれの地域が設定したEFのゴールを国際議会に報告します。

こうして、ゴール設定委員会は、国際としてのEFのゴールを国際議会に提示して承認を受けます。2005-06年度のEF予算は69,028米ドルとなります。

私たちが、このファンドに“今”投資することが、“将来”大きな利子となって帰ってくるのです。このファンドに将来への遺産として或いはギフトとして提供された資源が、投資され安全に守られて利子を生み出します。

これが、地域社会や多くの国々の人々のために捧げる私たちの奉仕や働きを更に大きなものとして継続されるよう、守り授けてくれるのです。

エンダウメント・ファンドへの個々の献金は、ゴールデン・ブックに記載されます。これは、金箔の装飾を伴った白色の皮革で装丁されており、偉大な記念冊子として、ジュネーブの国際本部に永年展示されています。このゴールデン・ブックには、ワイズメン、メネット、そしてワイズダムの友人たちの“金色に輝く行い”の数々が、その献金者の名前とともに記されています。このゴールデン・ブックには、献金者の特別な思いが記されています。或る人の素晴らしい奉仕の生涯を顕彰して、或いはまた、何か特別に感謝したい出来事があったことと

か、実に様々な思いが綴られています。また、YMCAのリーダーたちの献身的な働きとか、友人のこととか、クラブの記念事業や周年行事とか、何であれ、皆様のクラブの特別な記念を、永くこの冊子に刻んではいかがでしょうか。

どうか、覚えていてください。皆様のクラブこそが、世界のワイズダムの根幹をなす“根っこ”なのです。

EF 国際事業主任 ハロルド・スビルド

EF ゴール達成の秘訣

西日本区の柴田善朗理事は、この西日本区から出ている長尾ひろみアジア会長を励まそうと、2004-05年度の区のエンダウメント・ファンドのゴールを特別に20,000US\$に設定しました。勿論、このゴールは、これまでの実績に対しては相当に高い目標でしたが、酒井隆三郎・西日本区ファンド事業主任の強力なリーダーシップのもと、区内のクラブや部が大奮起して終了しました。酒井事業主任は、世界のワイズダムの発展に寄与するEFの根本目的を精力的にPRし、様々な表彰を含む文書アピール活動を積極的に行いました。

このような彼の素晴らしい努力のおかげで、西日本区は、20,233US\$(2,144,700円)を国際本部に送金することができました。この額は、設定されたゴールを上回るもので、この世界の中で授けを求めている人たちに何とかして応えたいという日本のワイズメンの力強い心意気を示すよい機会となりました。

西日本区理事 佐野文彦

ラテンアメリカ・カリブ地域の発展

リーダーシップ・トレーニングは、ワイズダムのどの地域でも重視している観点の一つです。しかし、ラテンアメリカ・カリブ(LAC)地域では、クラブ相互の距離が離れすぎているという問題があり、これまで地域のリーダー・トレーニングはすべて北米で開催されてきまし



Brotherhood Fund

た。この経費負担は大きく、また言葉の問題もあります。第7回地域大会の前に、このトレーニングをこの地域内で開催しようとの願いが始めて実現し、その成果は素晴らしいものでした。この経験は絶大で、この地域のワイズダムの発展に大きく貢献するであろうことを誰も疑う人はありません。第7回 LAC 地域大会、第27回ラテンアメリカ区大会、そして第7回 LAC ユースコンボケーションが、2005年3月にウルグアイで開催されたのです。アルゼンチン、ボリビア、チリ、ペルー、ウルグアイから、70名のワイズメン、メネット、そしてユースが参加しました。

LAC 地域会長 オマール・ポシエロ

世界中を良く理解しましょう

私の夫、ハーヴェイと私は2005年5、6月にBFフルグラント代表として韓国と日本を訪問しました。私たちは韓国の9つのクラブを訪問し、韓国南区とChunbuk区の区大会に出席しました。この間、7つのYMCAを訪問しました。韓国での素晴らしい2週間でした。

6月1日に、日本に飛び6つのクラブを訪問し、東日本区大会に出席しました。クラブ訪問の際に他クラブのワイズメンも参加して歓迎会をしてくださり、訪問クラブ以外の会員とも知合いました。日本でも5つのYMCAを訪問しました。訪問クラブに英語を話す人がいない場合、他クラブや友人が英語の通訳を買って出てください感謝しました。日本でも素晴らしい2週間を過ごしました。

2つの国で暖かく、好意的に迎えていただきました。私たちに示されたホスピタリティにたいへん感謝しています。私たちワイズメンは言葉が追っても理解し合えることを実感しました。訪れた土地で観光ツアーを用意していただき、両国の文化、歴史について興味深く学びました。このBFツアーは外国のワイズメンともよく理解できることの証になると思います。

韓国の区および部事務所に新クラブ発足からの歴史的記録や会員動向がすべて事務所に保管されているのを見



て感心しました。ある区の事務所に各クラブの資料がファイルされ常に更新されていました。この

手法は他の区でも参考にし、採用するようにお勧めします。

韓国と日本ではCE(キリスト教強調)がよく浸透していました。これで両国のキリスト教の教勢が盛んであることが良く分かりました。クラブ例会や区大会でもそう思いました。

YMCAとワイズメンズクラブとの関係は非常に親密であると感じました。両者は密接に協力し、相互に尊敬しているように思われました。両者が地域において認知され、尊重されていることを理解し私たちも非常に喜んでいきます。あらゆる職業のメンバーが急速に増えて大きくなっているところから、韓国のワイズメンズクラブは地域に密着したサービスクラブとして認知されているように思われました。

大部分のクラブメンバーは男性ですが、いくつかのクラブには、クラブの重要な役割を担っている女性がいました。ワイズメネットクラブは両国で活発に活動してありました。クラブメンバーに、またファミリープログラムにユースの参加はありませんでしたが、YMCA活動にはユースが活躍しています。全てのクラブが国際事業に熱心で、特にIBCには熱心です。

わたしのクラブも日本の熊本にある2つのクラブとIBC締結を望んでいます。我々のヘレナYMCAは熊本YMCAと数年前パートナーシップを結んでいましたが最近疎遠でしたので、パートナーシップを再建する途中です。



日本のメネット事業として始まったHIV/AIDSプロジェクトは今やUGPになっています。

東日本区大会でこのプログラムについて更に詳しく聞いて嬉しく思いました、TOF事業としてどのように実行されるでしょうか。

旅行計画を作る際、非常に重要ですので、BF代表の旅程は私の場合よりもっと早く連絡があるようにすべきだと思います。BFポリシーの旅程決定タイムテーブルは厳守すべきです。

旅費を安くするためには4、5ヶ月前に航空券の予約ができれば安くなりますが、私の場合のように6週前の

求めるワイズから行動するワイズへ

予約では安くはなりません。区を訪問する BF 代表の旅程を区理事が準備のためになるべく早くその情報を受け取る必要があります。

BF 補助金を受け取り米国地域、太平洋北西区のヘレナ Y サービスクラブ代表として旅行できたのはとても素晴らしいことでした。韓国と日本のワイズメンとの意見交換から得た学びと経験を太平洋北西区の仲間に伝えていきたいと思っています。多くの写真を振りまいた、私を呼んでくれるクラブに BF 旅行報告するために写真を整理しているところです。私のコミュニティーにも私の経験を伝えたいと思っています。

ヘレナ Y サービスクラブ、太平洋北西区、米国
BF04/05-21 代表 イラ・スティーン



展開のポスター、小冊子の作成に使用させていただきます。

3. エカテリンブルグの教会が、AIDS 撲滅運動に係わってくれていることを知りました。その修道院が 2 歳から 6 歳の 30 人のこどものためのシェルターを運営しています。ジョージ神父と知り合いになりました。そのシェルターは、大変きれいで清潔で、子供達はよい環境で育てられています。私たちは、衣料、おもちゃ、本などを寄付しました。子供達はそこで飼っているロバ、ウサギ、鶏などの動物を見せてくれました。子供達は、これらに動物を大変可愛がっています。ジョージ神父によると、大半の子供達が痛痛、精神障害、心臓病、などの病気を患っています。多くの子供達が親の犯した罪を償っています。お医者、先生の治療、介護が必要です。

この問題にみなさん関心おありでしたら、一粒の小麦をいただければ、それが最後に山を動かすこととなります。この言葉は、他人に無関心でいられないことを私たちに教えてくれます。ご協力を感謝します。

ロシア・エカテリンブルク・ワイズ オルガ・アザリアン

東京の中心に新しい Y サービスクラブ

6 月 4 日にチャーターした東京センテニアル Y サービスクラブは東京にある在日本韓国 YMCA を支援する為に生まれた新しいクラブです。在日本韓国 YMCA は 1906 年に設立され、日本における多くの在日韓国人達の自由と正義を求める人たちの交わりと活動の場でした。新しい平和のゴールができて 60 年が過ぎ、以前あった韓国ワイズメンズクラブの再生ではなく、アジアにおける平和の架け橋となるべく、多国籍の会員による在日本韓国 YMCA 支援を目指す新しいクラブです。来年の釜山での国際大会でこのクラブとブラザークラブ締結をのぞまれる方はクラブ書記、西村隆夫までご連絡を

(t2465@aol.com).

ロシア・ウラルでの AIDS 撲滅プログラム

- 現地ワイズの働き -

ワイズメンズワールド紙(2004/5 第 2 回目発行 13 頁)に私達の活動のことを書きましたが、この記事に掲載してくださったことを、わたくしたちエカテリンブルク・ワイズのみんなは大変喜んでいます。

このワイズの雑誌のおかげで、友人が私たちの活動に関心を示してくれています。ここエカテリンブルグクラブの AIDS 撲滅の活動をどのように展開するか協議しましたが、次のような活動をすることを決めました。

1. AIDS に感染した子供たちの施設に、今年の夏、果物を贈ることをきめました。あまり大したことはできませんが、まず第一歩です。



2. ティーンエイジャースを対象に「AIDS や薬物使用の問題」をテーマにした絵の募集をやり、コンテストを行いました。ここでは、15 歳から 17 歳の子供たちで、



薬物売買、盗みなどの犯罪に関与した子供たちがたくさんいます。子供たちの多くは、家庭崩壊を経験しています。かれらの描いた絵にもそれが表

れています。かれらの中には、大変才能がある子供がいます。ワイズメネットの国際プロジェクトから US \$ 2,700 をいただきました。この撲滅運動



Welcome to the Land of Wonder

67th International Convention

August 3 ~ 6 2006

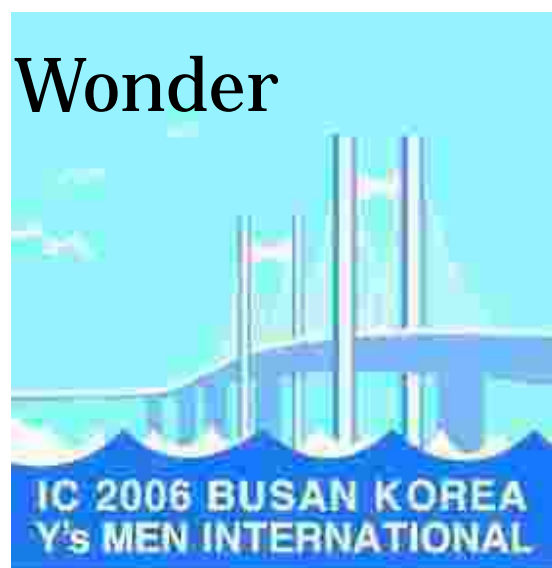
Host Committee Office

13-2-GA, Bosu-dong, Jung-gu.

Busan 600-082, Korea

Email: goldservenl@naver.com

Web site: www.ysmenic2006.com



ワイズメンワールド2005 - 2006年度 第1号 日本語版

発行人 東日本区理事 浅見隆夫 西日本区理事 佐野文彦

翻訳編集委員長 青木一芳(千葉) 印刷 三浦克文(岡山) から OCR 読み取り再編集 by 十河